

おすすめ本紹介

◆テーマ◆

食べる(新着図書の中から)

●ライオンのおやつ

小川 糸 著
ポプラ社

瀬戸内海の島にある「ライオンの家」は、末期癌の人たちが最期の時を過ごすホスピス。ここでは丁寧な食事が提供されます。

朝は毎回異なる具材のお粥。昼はバイキング形式。夜は精進料理ベースのお膳。希望すれば肉や魚も。そしてなにより、特別なおやつの時間があります。住人たちは、もう一度食べたい「思い出のおやつ」を、リクエストできるのです。

海野雫は33歳。自分に残された、わずかな時間を過ごすため「ライオンの家」にやってきました。彼女の思い出のおやつとは…。

●地理女子が教える

ご当地グルメの地理学
尾形 希莉子・長谷川 直子 著
ベレ出版

日本各地には「ご当地グルメ」と呼ばれる、その地ならではのおいしい食べ物がたくさんあります。

この本は、全国のご当地グルメを都道府県別に紹介してくれますが、それだけではありません。その土地の気候や地形、歴史などの視点から、「なぜその地で、その食べものが生まれたのか」について教えてくれるのです。

たとえば、神奈川県「崎陽軒のシウマイ」の章では、横浜に中華街ができた歴史的経緯や地理的要因まで知ることができます。

教えてくれるのは、お茶の水女子大学で地理学を研究する“地理女子”の尾形さんと長谷川さんです。

まだまだあります。
「食」の本

●「勝ち飯」レシピ

一汁一菜編

協力：味の素株式会社
KADOKAWA

目標をかなえるための体づくりをめざす栄養プログラム「勝ち飯」のレシピ集。

●全196カ国

おうちで作れる世界のレシピ

本山 尚義 著

ライツ社

身近なスーパーで買える材料だけで作れる、世界198カ国の料理のレシピ集。

●戦争めし

命を繋いだ昭和食べ物語

魚乃目 三太 著

秋田書店

75年前の戦争中、食糧難の中で人々は、何を食べていたのでしょうか？

●自分の力で肉を獲る

千松 信也 著

旬報社

著者の千松さんは、鉄砲を使わない猟をする猟師。「食べる」と「生きる」を考えさせてくれる一冊。